

最上町の let's Challenge !

Vol.4

スケートボードで地域おこしを目指して

閉校した小学校の 斬新な利活用

菅嶋 隆也 さん
すがしま たかや

32歳 若宮地区



平成3年生まれ。自営業畜産。旧東法田小学校の体育館にスケートボードパークを開設。また新庄市内を拠点としたスケートボードのスクールを運営。趣味はスケートボード、釣り、温泉。好きな言葉は「とりあえずやれ」。



「スケートボード（以下、スケボーと省略）が最上町でも生活の一部として文化になってほしい。」と話してくれた菅嶋隆也さん。小学校ではクロスカントリースキーに夢中になり、全国大会で優勝も経験。その後は、自身のその身体能力を活かしスケボーの道へ。本当の面白さに気づき魅了されたのは高校生の頃で、その情熱は今でも続いている。

ケボーを教えている。「教えている感覚はない。楽しさを共有することによって、自分自身も成長できる」。本人は壮大な夢を描き活動を行なっている。同校にスケボーパーク、キャンプ場、子供の遊び場など、廃校になった小学校を利活用して、誰もが楽しめる空間を創り上げることを目指している。そして、そこに来る人々が町内外、年齢問わずスケボーを通して生れるコミュニティも大切に活動しているとも話してくれた。

また、セクション※などの構造物を自身で作ってしまうほどに、その力の入れ方は半端ではない。「スケボー仲間みんなど、セクションを一から作ったり、体育館にパークを開設できたりした時には達成感がありましたね」。体育館に設置されたセクションは、スケボーの仲間とともに創り上げたもので、実際に使う人達が気持ちよく満足いくものに仕上げたと言う。「構造を理解して、滑る人たちのことを考えて作ることで本物が完成する」と菅嶋さんは話す。そして、様々なイベントも



企画し、町内外から多くの人々を集めることにも成功。10月8日（日）に行なわれたイベントでは、延200名程の来場者を集め賑わいをみせた。「今後は、利用者や町の方々のスケボーの共存を願い、本当の意味でいい場所になるように、今ある環境をみんなが育てていきたい」と語ってくれた。

スケボーの讚え合いの精神を大切に、今後もスケボーで地域おこしを目指す菅嶋さんのご活躍を期待しています。